



# Jichi 地域連携ニュース

- ・地域医療連携・患者支援部長就任のご挨拶
- ・歯科口腔教授就任のご挨拶
- ・専門看護師の活動状況
- ・地域医療連携研究会の開催報告
- ・NST研修会のご案内

## 地域医療連携・患者支援部長就任のご挨拶



### 腎臓内科 教授 長田太助

平成26年11月より地域医療連携・患者支援部 部長を拝命しました長田太助です。前任の長谷川剛先生に負けないよう精一杯任務にあたっていく所存です。平成25年8月に本学内科学講座腎臓内科部門教授 兼 附属病院腎臓内科診療科長として着任していましたが、今回はそれ以外にも一つ大きなミッションを背負ったということで、パワー全開で頑張ろうと思っております。もともと腎臓内科医ですので、透析医療を通じて周辺のクリニックの先生方とは顔見知りであり、また患者さんの受渡しはかなり煩雑ですし、

今回の地域医療連携・患者支援部長の職は適任だと考えておりました。確かにそのような素地があったので助かっている部分は大きいと思います。しかし地域医療連携・患者支援部は取り扱う業務が多岐にわたり、当然その程度の私のバックグラウンドで全て解決できる訳もありません。実際、病診連携室・看護支援室・総合相談室・入退院支援室・ボランティア室の5つの室を包含する大きな部でありまして、部員の皆様の並々ならぬ努力によって支えられています。さらに入退院支援センターが部内に設置され、入院前から入院後までシームレスに患者さんを支援していく組織になる予定です。自治医科大学附属病院が患者さんにとってストレスのない快適な病院になれるように努力してまいります。

自治医科大学に赴任する前は獨協医科大学におりました。さらにその前は東京大学医学部附属病院におりました。いろいろな大学病院を経験してみて、自治医大病院は設立の経緯もあるのか、とても東大病院に雰囲気似ております。ですから東大病院から獨協医大病院に行ったときに非常に違和感があったのですが、獨協から自治に来てみてなんとなく元の東大に戻った感じであり、まったく違和感はありませんでした。今後は、同じ県内の獨協医大病院の良い所はどんどん真似して、自治医大病院を名実ともに日本一の大学病院にするために寸暇を惜しまず努力する所存です。

東京で仕事をしていた時にはまったく考えもしなかったのですが、栃木では地域医療と専門医療の狭間でもがき苦しむことが日常の仕事となりました。自治医大はそれに対する最良の答えを導き出せる唯一の大学だと信じております。今後とも腎臓内科と地域医療連携・患者支援部の二足の草鞋を履いて頑張っていきたいと思います。応援を宜しく御願いたします。

## 教授就任のご挨拶

### 歯科口腔外科 教授 森良之



平成26年8月1日付けで、歯科口腔外科学講座教授として着任いたしました森と申します。前職の東京大学医学部附属病院におきましては顎変形症に対する顎矯正手術を中心に、口腔外科疾患に対する治療に専念してまいりました。

高齢化が急速に進んでいるわが国では、口腔の医療はますます重要になってきています。口腔には、「食べる」、「しゃべる」、「豊かな表情を作る」など、有意義な人生を送るための必要不可欠な機能があります。また、口腔は感染の門戸でもあり、口腔衛生状態が感染性心内膜炎や誤嚥性肺炎などの循環器系・呼吸器系疾患や頭頸部外科手術・消化器外科手術の術後合併症と密接に関連すること、特に歯周病と糖尿病や循環器疾患との関連を始め、歯科疾患と全身疾患との関連が次第に明らかになりつつあります。今後は内科等の関連各科と協力して歯科口腔外科診療が重要であると考えます。

一方、一生健康な歯で暮らすためには成長期の口腔管理が重要です。先天的な原因で最も多い口唇口蓋裂患者さんのほか、後天的な要因でも顎の成長発育に異常をきたす場合も少なくありません。日本人で多い下顎前突症（受け口）などの顎変形症に対しては、矯正歯科医とともに顎矯正手術を積極的に行っていきたいと考えております。

また、口腔悪性腫瘍に対しては、形成外科や耳鼻咽喉科、放射線科、臨床腫瘍科など各科の専門医と連携をとりながら治療を進めていきたいと考えます。こうしたチーム医療の中で、患者さんが咬合を回復し摂食・嚥下が可能になることを治療のゴールとして頑張りたいと思います。

今後診療体制の充実を図るとともに、一般の開業医の先生方や地域の病院と連携を密にしていきたいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 《専門・認定看護師の活動状況》

### 透析看護認定看護師 小林玲子

#### ◎ 透析センターの紹介

- ◎ 当院は、入院透析センター18床 月水金2クール 火木土 1クール、外来透析センター20床 月水金1クールで稼働しています。
- ◎ 入院透析センターは、検査や手術目的入院、特殊浄化、透析導入の方の透析を行っています。術前・術後の透析は、治療による侵襲に加え、違う透析施設で透析を行う環境の変化があるので、安全に、安定した透析を行えるよう支援しています。
- ◎ 腹膜透析外来は火・木に行っています。入院中から、医師・病棟看護師・外来看護師・栄養士によるカンファレンスをおこない、情報共有につとめています。
- ◎ 外来透析センターは、開設3年目にはいりました。当院で血液透析導入後、当院通院を希望された方、他院へ転院までの期間がある方が対象です。

透析導入した方の「保存期の過ごし方を知らなかった。もっと自分で出来ることがあったのでは」という言葉をきっかけに、2009年に腎臓病教室・とちまめ会を始めました。この会は、CKDステージ3から5の方対象に、看護師・管理栄養士・薬剤師が腎臓の働きや保存期の過ごし方、食事の工夫、お薬を飲むときの注意点、腎代替療法選択について講義をしたあと、個人相談を受けています。「何をどれくらい食べていいのか分かりません。栄養指導も受けたことがないです。」「食間薬のクレメジン飲み忘れない工夫はありますか。」「この教室に来たということはすぐ透析になるんですか。いまの状態を保つにはどうしたらいいですか。」など、質問の内容によって看護師・栄養士・薬剤師が対応します。



#### ◎ 透析看護認定看護師活動の紹介

- ◎ 私は、東京女子医科大学で6か月間学び、認定試験を受け、透析看護認定看護師になって5年目です。臨床経験を積んだ後に学生になり、新潟から九州までいろいろな地域・施設の同期生と学ぶことは新鮮な刺激でした。そのつながりは、大切な情報交換・情報共有の基となっています。
- ◎ 日々の仕事で意識しているのは、透析効率の評価と食事がとれているか、です。尿毒症症状のために食欲が落ちていた方も透析を行うにつれ食欲が出てきます。しかし、保存期で食事制限を頑張った方ほど「怖くて食べられない」という方が多いです。元気に過ごしていただくために、十分透析が出来ているかを判断し、検査結果と食事の内容を結び付けながら「食べても大丈夫」と伝えることを大切にしています。

## 第4回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会が

～ 高齢者医療の地域連携 ～をテーマに開催されました

地域医療連携・患者支援部

平成27年2月7日（土）、ホテルマイステイズ宇都宮において、自治医科大学附属病院主催、栃木県医師会・栃木県歯科医師会後援の「第4回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会」が開催されました。当日は、県内外の地域医療に関わる医師・歯科医師・看護師・その他医療技術系職員や連携業務に携わる方々に院内参加者を含め、143名の参加がありました。

安田病院長の開催挨拶に引き続き、総合診療内科 松村教授の司会で第1部講演会を開始しました。

初めに新小山市市民病院 島田理事長が「高齢者高血圧症の降圧療法」と題して、高齢者や要介護者に対する降圧療法の意義について講演されました。次に同病院 川上副院長が「認知症の診断・治療・ケア」と題して、認知症の治療法、ケアのあり方など講演されました。続いて司会も努めた松村教授が「総合診療内科の高齢者入院患者の特徴」と題して、過去1年間の統計から見た患者の特徴を明らかにし、ケア・病診連携のあり方について講演されました。

第2部は、医療法人アスミス 太田理事長と地域医療センター 三瀬准教授を司会に「高齢者医療における地域医療連携・地域包括ケアを考える」と題し、各パネリストによる発表やパネルディスカッションを行いました。初めにつるかめ診療所 鶴岡先生より「在宅医療と地域連携」について発表がありました。次に腎臓内科 秋元准教授より「当科において透析導入を見送った高齢末期腎不全症例の実態」について発表がありました。続いて整形外科 安食准教授より「高齢者大腿骨近位部骨折における地域医療連携」について発表がありました。最後に歯科口腔外科 野口講師より「当科における高齢者の口腔がん治療後の地域医療連携・包括ケア」について発表がありました。

引き続き、地域の診療所(医科、歯科)の先生からのご意見や質問を中心にディスカッションを行い、高血圧、認知症等、講演内容についての質問も出されるなど、活発な意見交換が行われました。

また、研究会終了後は懇親会を行い、情報交換を行うとともに親睦を深め、盛会のうちに終了しました。

次回の開催時には、より多くの医療関係者の参加をよろしくお願いいたします。

## ♪♪♪ 附属病院からのお知らせ ♪♪♪

### ✿ NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）  
対象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修  
問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

演題	日程	講師
在宅・院外施設に向けての栄養管理・指導	3月3日(火) 18時～19時	臨床栄養部 荒川由起子 管理栄養士(NST専任栄養士) 看護部 古内三基子 看護師(NST専任看護師)
第18回下野栄養管理研究会	4月21日(火) 18時～19時	国際医療福祉大学 外科 教授・上席部長 鈴木裕 先生
栄養管理の重要性、栄養に関する生理機能 栄養評価(アセスメントとプラン)	5月12日(火) 18時～19時	消化器外科 倉科憲太郎医師 (NST運営委員長) 臨床栄養部 川畑奈緒 管理栄養士(NST専任栄養士)
消化器の機能とその評価・栄養法の選択 栄養管理に必要な検査	6月2日(火) 18時～19時	消化器内科 坂本博次 医師 (NST運営委員) 臨床検査部 廣澤恵 臨床検査技師(NST運営医員)

発行者 地域医療連携・患者支援部 病診連携室 TEL 0285-58-7461 FAX 0285-44-5397 Eメール byoushin2@jichi.ac.jp